



成功した人間になろうとするな。  
むしろ価値のある人間になろうとせよ。

アルベルト・アインシュタイン

## はじめに

会社ではいろいろなことを教えてくれます。新卒で入れば、懇切丁寧にビジネスマナーや社会人として必要な知識、会社の中での仕事の仕方・ルールを教えてください。企業によってはOJT (On-the-Job Training) ということで、仕事を実践しながら学んでいくことを推奨しているところもあります。

基本的に会社では、**いち早く自社に利益をもたらす人になるよう育ててくれます。**

そのため仕事で間違ったり、失敗したりすると先輩や上司が叱ってくれます。形は違いますが、会社では、学校のように早く一人前になるように指導してくれるのです。

一方で、会社では教えてくれないことも存在します。それは何か？

乱暴に言ったり、**自社の利益に直接結びつきにくいことです。たとえば「転職」について会社で教えてくれるでしょうか？**

その会社がリストラをしていないかぎりには、なかなか考えられません。会社は、社員がどんな会社でも食べていけるように教育・研修や人事異動をしているわけではありませぬ。あくまでも会社の中でしっかりと働いてもらい、社内でも一人前になってもらうことが



前提になっているのです。社員には市場価値を高めてはもらいたいものの、他へ転職できるくらい高めてもらったら本来は困るのです。

私は前職株式会社リクルートエージェント、株式会社リクルートに在籍し、これまで5000人以上の就職・転職の相談に乗ってきました。履歴書や職務経歴書はおそらく3万枚以上見てきたと思います。

就職や転職といった人生の節目のとき、人は大きく悩みます。

そして悩み、選んだ会社で「想像していたのとは違っていた」「辞めたい」「辛い」と言う人がいます。また一方で、仕事を続けるうちに楽しくなってきた、「あのとき辞めなくてよかった！」と言う人もいます。

就職や転職は恋愛と一緒に、それぞれ自分にとって「運命の人」(＝「天職」)とは何なのか、どう定義づけるかが大事なのです。そういったことが、意外に転職の本には書かれていない気がします。

そこでこの本では、私のキャリア経験をふんだんに盛り込み、『会社では教えてくれない

仕事のルール』と題しまして、会社ではなかなか学べない、教えてくれないことを事例を挙げながらわかりやすく述べています。

ただし、仕事のノウハウは会社や他の書籍でいくらでも学べますので、本書ではノウハウやテクニク的な要素は極力排除しています。ノウハウやテクニクではなく、自分自身の成長を促し毎日楽しく仕事ができ、仮に将来転職したときも「よかった」と思えるような、自分なりの定義づけができるポイントを中心に挙げています。

会社で「教えてくれる」仕事のルールを「その会社におけるノウハウやテクニク、社会人としての基礎、マナー、仕事術」と定義づけるのであれば、会社では「教えてくれない」仕事のルールは、「自分の考え方・スタンス、ビジネスにおける筋力(ポータブルキル)、市場価値が高い状態になること」と言えるのではないかと思います。

仕事をするのはこれから先も続きます。家事をすることだって働くことです。

人生の大半を占めるのですから、できれば楽しくしていきたいものです。本書によってあなたが大きく成長し、もっと楽しく、よりよく働けることを願っています。

2010年1月 長井亮